

Victory

NO.2

令和7年5月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

*学校HP>学校図書館>#図書館の日常随時更新中

風薫る五月。新緑が目にまぶしい季節となりました。

本校の希望の坂の銀杏並木も日一日と緑が深くなっている様子がうかがえます。

5月4日(日)の毎日新聞のコラム余録は、「みどりの日」に因る内容でした。視覚・聴覚を失いながらも福祉活動に邁進したヘレン・ケラーのエッセイから、自然の美しさに心を向けることの大切さを届けています。私たちの住む日本の森林面積にふれつつ、スマホに時間も心も奪われている現状を示しながら、最後の部分で次のようにまとめています。(以下、引用)

きょうばかりは、自然を見て、聴いて、嗅いでみるのもいいだろう。

ケラーは言っている。「最も美しいものは、心で感じなければなりません」全文読みたい人は、図書館に常備していますのでぜひ手に取って読んでみましょう。この日の毎日新聞の装丁も、イキです。それも是非感じてください。

五月も半ば、中間考査も終了し、高校総体がやってきます。運動部のみなさん、特に高校3年生にとって、集大成となる青春の一コマとなることでしょう。全力で挑んでください。応援しています。

さて図書館は、先月新入生図書館オリエンテーションも終わり、昼休みや放課後は本を借りる、読書する、自学する、きみろんのレファレンスにくる、リフレッシュしにくる、など自分のニーズにあわせた活用が展開されています。

今月17日には、本校OBである東大生3名によるSSHのサイエンスカフェが開催されます。図書館として、実施される3講座の関連図書の展示も今後していく予定です。そちらもぜひ、手に取ってくださいね。



5月の図書館展示

4月から継続して、入り口すぐのコーナーは、「朝読、何読む?」コーナーです。

図書委員による読み応えのある本のセレクション、迷ったらここへ!

その一角には、今月から高2国語科の村岡先生の「国語科通信」コーナーをセッティング。通信で取り上げられたテーマ(文学、社会情勢等多岐にわたります)関連した本と一緒に、ぜひ全学年にも読んでほしい内容です。ちなみに、現在は中原中也です。

次回は、どんな出会いがあるか楽しみです。

図書館では、教科の単元関連図書の紹介もしています。今は、高2論理国語『失われた両腕ミロのヴィーナス』を美術全集と著者の作品を展示しています。今月後半は、高1が芥川龍之介、高2は中島敦の世界を展示します。また、今回の展示では、学年ごとに図書委員が手掛けた関連展示物も登場します。

授業とリンクさせながら、文豪の世界を堪能してみませんか?

図書館からのお知らせ



一年を通じて、アナログ・デジタル両方向からさまざまな情報を発信しています。今年度もその一つとして、Classroomを活用した情報提供を並行して行っています。新情報は、各クラスの図書委員から必要に応じて連絡があると思います。

そのため、Classroom「Library Labo～図書館ルーム～」への参加をお願いします。各自が学校から配付されたGoogleアカウントでログインしてください。昨年度登録した2、3年生も新たに入り直してください。



棚からひとつかみ「夢中になる！」

あなたが夢中になっていることは何ですか？そもそも夢中になっていることはありますか？今回は、好きこそものの上手なれとはまさにこのことだ！と感じる2冊を紹介します。

5月10日から16日は愛鳥週間です。



『僕には鳥の言葉がわかる』 NDC488ス

鈴木俊貴著 (小学館 2024)

私たちの身近に生息しているシジュウカラ。彼らにも言葉があるのではないか？それもしっかりと文法が！？著者の研究が始まった。

ある時は山にこもり、またある時はキャベツで死ぬ思いをし、さらにはひたすら巣箱をかけまくり…それもこれもシジュウカラ愛が成せる技。ご存じのとおり、著者の論文は中学1年生の国語の教科書にも一部掲載されている。

本書は、学会で発表した論文が「動物言語学」という新しい分野の学問を生み出すこととなったプロセスはもとより、研究ってこんなふうに進めていくんだなということがダイレクトに伝わるイチオシの一冊だ。だが、しかし何よりシジュウカラのためなら何だってできる！という深い愛に包まれた探究心が新たな世界を開くこととなったのは言うまでもないだろう。

『無人島、研究と冒険、半分半分』 NDC488.2カ

川上和人著 (東京書籍 2023)

小笠原諸島の無人島を舞台に鳥の研究をしている著者。本書は、南硫黄島の調査と研究の様子を伝えてくれる。まるでギャグマンガか？と思うほどにその文面も臨場感にあふれている。実はこの著者、NHK・第1ラジオ「子ども科学電話相談」の鳥類担当者でもあるので、機会があればぜひ聞いていただきたい。

扉を開こう。新たな世界が君を待っている。



自分の可能性を広げてみませんか？この時期になると、さまざまな分野のコンクールの案内が届き始めます。今回紹介するのは、思いを言葉にして届ける次の2点です。募集要項等は図書館廊下に掲示します。

予告

新潮文庫第13回中高生のためのワタシの一行大賞

～読書エッセイコンクール～

毎年、夏休み前に「中学生に読んでほしい30冊」、「高校生に読んでほしい50冊」の冊子を配付していますが、このコンクールの対象図書にもなっています。その中から読んだ本で心に深く残った「一行」（「一文」「ひとかたまりの意味をもった言葉の連なり」という意味です。）を選び、自分の思いやそれにまつわるエピソードを自由に書いて応募してみませんか？大賞に選ばれた作品は、次年度の冊子に掲載されます。

応募要項等は、後日配付予定の冊子に記載されているので、確認してください。読書感想文ではなくエッセイになります。ぜひチャレンジを！

募集中

お気に入りの一冊をあなたへ 第5回読書推薦文コンクール

「すすめたい相手」に向けて、あなたのお気に入りの本を自分の言葉で伝えてみませんか？

* 【募集内容】「何が気に入っていて」「何を伝えたいのか」

* 【対象図書】小説、詩、マンガ、図鑑など。

* 【用紙】専用原稿用紙使用（入手方法は、応募方法を参照：図書館に掲示）。「すすめたい相手」「本の題名」「出版社名」を明記。

* 【応募資格】中学生